

# ともしに新聞



第8号

二〇二三年(令和五年)四月

鞆の浦学園 学園会

## 入学式の報告



四月七日(金)は入学式でした。二十名の可愛い一年生が鞆の浦学園に入学しました。ピカピカのランドセルを背負っている姿やピカピカの制服を着ている姿がまぶしく見えました。

十日(月)は初めての給食でした。六年生のお兄さんお姉さんに準備してもらっていましたが、ワクワクしている様子が伝わってきました。給食室の先生からの特別プレゼントもありました。一年生のために心をこめてランドセル飾りを作ったそうです。一年生の皆さん。入学おめでとうございます。

可愛いランドセル飾りが付いています。



## 「絆」リリース

NO8

新学期が始まりました。PTA会長古山さんからバトンを受けたのは、道越町でお好み焼き屋さん「きち」を営んでおられる衣笠さんです。きち」と言う店名はラッキーのきち、大吉のきち、秘密基地のきちを意味するそうです。

まず、なぜお好み焼き屋さんを開いたのかを教えてくださいました。地域の方々からお好み焼き屋さんがあったらいいなという話があり、願いを叶えたいと思って開いたそうです。お好み焼きを食べた人たちの感動している顔を見たり、声を聞いたりするときにやりがいを感じておられるそうです。

お好み焼きのこだわりも教えてくださいました。

- 鞆の練り物を使っていること
  - 初代のお好み焼き屋さんの方の焼き方を引き継いでいること
  - 燻製マヨネーズを自由にかけてもらえるようにしていること
  - こだわりのお好み焼きは言葉が出ないほどの美味しさです。
- 最後に、鞆の浦学園の児童生徒の皆さんにメッセージをいただきました。

たくさんの人とつながりをもつことで、たくさんの「縁」がもらえます。人と人との関係を大切にしたい。」



店長のたけしさんは、地域の方の笑顔が増えるようにお好み屋さんを開いたと聞いて、とてもやさしい方だと思いました。そしてなんととってもこだわりのお好み焼きはおススメです！

(六年 橋本知)

## ありがとうを伝えたい

NO8



今回、ありがとう」を伝えたいのは、五年生の頃から鞆学でお世話になっている羽田知世さんです。

羽田さんは、きくらホーム」の取締役を務めるだけでなく、作業療法士としても活躍されています。六年生の鞆学をはじめ他学年の学習のためにもたびたび学園に足を運んでくださっています。

今回は、お仕事で一番うれしかったことを教えてくださいました。利用者のご家族が、きくらホームで過ごさせてもらって本当に良かった。」と気持ちよく伝えてくれたことだそうです。また、小さいころから知っている近所の方に「いい仕事(人のためになる)してるなあ。」と言ってもらえることも嬉しいと言っておられました。インタビューをしてみて、利用者の幸せだけでなくご家族の幸せも願ってお仕事をされている姿に感激しました。また、大変だったことを聞くとやはり、「コロナウィルスの流行」だったそうです。利用者が感染しないように気を配ったり、スタッフが健康でいられるように気を付けたりと本当に大変だったと言われていました。

最後に利用者のために私たちは何ができるか質問してみると、学園の子どもたちとたくさん関わりたい」と言ってくれました。学園のみんなだけでなく、きくらホームの利用者ももっと元気になるようなことを考えたいです。羽田さんから学園のみんなにメッセージをいただきました。

「この地域はみんなを愛情いっぱい育ててくれています。皆さんも地域を大切にしてください！」

行事の時や交流の時に利用者の方々が笑顔になってくれることにやりがいを感じると言われていたので、今作っている鞆の浦体操と一緒にしたいと思いました。(六年 水長 鼓遙)

